

安心して暮らせることを保障する国家戦略を ——結成 35 周年の新年に思うこと——

代表理事 **高見 国生**
Takami Kunio



新年おめでとうございます。

会員みなさんにとって今年が良い年になりますようにと、お祈りいたします。

日ごろお世話になっているみなさまには、どうか今年もよろしくお願いいたします。

「家族の会」が誕生して35年を経過しました。人間なら十分な大人です。男でも女でも働き盛り、家庭にあっても揺るぎない存在と言えるでしょうか。

さて、「家族の会」はどんな年を過ごそうとしているのか。それは、10年1日ならぬ35年1日のごとく言い続けてきた、「ぼけ」でも安心して暮らせる社会を目指すということです。私たちの願いと活動は、35年間一貫してブレることはありませんでした。目の前で介護に苦しんでいる人を支える、そのためにつどいを開き、会報を発行し、電話相談を受ける。日々の生活は変わらなくても仲間が居ると思えるだけで介護は続けられる。近年は、認知症の人どうしのつながりも作ってきました。そして、社会の人に関心を持ってもらい行政対策を進めてもらう——そういう取り組みを営々と続けてきました。

社会の関心が低く施策も皆無の時代は、「家族の会」は社会を先導する役割を果たしました。介護保険制度が誕生するときは、認知症に対応する制度になるように協力し、その後は制度の改善に知恵を提供してきました。去年は、その介護保険が後退することを防ぐために初めて署名活動を行いました。いつの時代も、「家族の会」の判断と行動の基本は本人と家族の幸せであり、活動の規範は絶対に本人と家族の心から

離れない、ということです。そのことは「理念」にも掲げられており、このことを守っている限り「家族の会」の主張や行動がブレることはありません。

去年は、認知症サミット日本後継イベントが開かれ、世界の中で日本の認知症への取組みに注目が寄せられました。私も、日本の「家族の会」の自慢できる取組み、つどいを「TSUDOI」として発表し、片山禎夫理事は「認知症にやさしいコミュニティとICTの活用」について発表しました。国は、認知症の国家戦略を作成すると表明しました。

一方で介護保険を後退させながら、一方で国家戦略として重視するという方向性に若干の分かり難さを感じますが、それだからこそ余計に、新しい国家戦略に期待も寄せたいと思っています。昨年暮れの厚労省の国家戦略策定のためのヒアリングで、私は、三浦公嗣老健局長と水谷忠由認知症・虐待防止対策推進室長に対して、いまわが国としてなすべきことは、①世界の認知症ケア、取組みに貢献すること —2017年国際会議の開催— ②国内で認知症重視の形を整えること —認知症基本法制定や厚労省に認知症局の設置—、などを提案しました。

「家族の会」の結成35周年の年に、ようやく認知症の国家戦略が語られだしたことにうれしい感慨を覚えます。認知症の人と家族の声を反映して、世界に誇ることが出来るこれからの国家戦略—安心して暮らせることを保障する認知症施策—が策定されるように「家族の会」としても行動したいと思っています。

10年後の
認知症医療やケア

私の予想

11月に開催された認知症サミット日本後継イベントでは、安倍首相が現在の認知症対策を拡充し、新たな「国家戦略」を策定する方針を表明しました。国のトップが認知症問題取り組みへの加速を、国内外に宣言したと本人・家族は期待をしています。そこで、10年後の認知症の医療やケア、制度はどうなるのか。本人はじめ、専門職のみなさまに予想していただきました。



地域で支える専門職が増えて

日本作業療法士協会常務理事 荻山和生

出来る限り早期から支援を届けられるよう、病院勤務者よりも多くの作業療法士が地域で働き、皆様のご家庭で生活を支えられる体制が整えられます。住環境に関連する企業にも多様な医療専門職が関わり、介護用具や福祉機器は格段に進歩して介護の身体的負担は軽くなります。生活面では、ご本人の生活史と現在の生活行為に焦点を当てた活動により、認知症になっても自宅での生活が長く維持されることでしょう。地域では、早期に専門職と相談ができる認知症カフェのような場が増え、ご本人とご家族の願いをもとにしたオーダーメイドのリハビリテーションが、日本のどこでも安心して受けられる国になると信じています。



絶望の淵から治癒への希望に

ケアマネジャー 花俣ふみ代

10年後、介護現場ではケアモデルを認知症主体に転換せざるを得ない状況となり、その担い手の確保とスキルアップのために、抜本的な処遇改善が実施されていなければならない。さらに認知症ケアの専門性を高め、本人（…私を含めこの頃には、今の現役世話人が当事者となっている！）の要望や提言に添ったケアのあり方を常に模索・検証し、人としての尊厳を守りぬく支援体制が整えられ、その中心的役割を担う「認知症認定介護福祉士」なるものが育成されている。また根治薬の実用化とともに、患者や家族は絶望の淵から解放され、専門職や仲間と足並みを合わせ治癒の希望へと向かう～そんな時代が必ずや到来していることを願ってやまない！



根本的治療薬で発症予防

弘前大学神経内科教授 東海林幹夫

認知症の研究は素晴らしい速度で進んでいます。10年後にはアルツハイマー病ばかりでなく、すべての原因疾患で関連遺伝子、バイオマーカーや軽度障害から認知症発症までに至る症状の推移がすべて明らかにされます。ABやタウなどの脳に蓄積している原因物質をPETやMRIで発症以前にだれでも検査できる状態があと数年で可能になります。欧米では、このような発展を前提に、2013年からABアミロイドに対する予防介入臨床治験が開始されました。2〜3年後にはそれぞれの結果が出そろいます。

コレステロールを下げて動脈硬化を予防できるように、根本的治療薬によってアルツハイマー病の発症を予防できる時代が10年以内に始まると思います。

ますます大忙しの「家族の会」

厚生労働省老健局長 三浦公嗣

認知症の原因である生活習慣病への対策が軌道に乗り、今後は認知症の発生は以前よりずっと少なくなると考えられている。人間ドックでは、6年前から血液検査による低価格でのアルツハイマー病の早期診断が行われている。受診者の増加によって当初は患者が増えたが、新規の発生は徐々に減ってきている。

3年前から始まった国産治療薬の臨床研究の結果は画期的だった。アルツハイマー病の軽度者はもとより重度者に対しても病気の進行を止めるばかりか、リハビリテーションとの組み合わせで改善も見込まれることが明らかになったのだ。

一方、「家族の会」はますます大忙しだ。全国のご本人やその家族からの生活全般にわたる相談の窓口として、各県の支部は地元の介護や医療の専門家のたまり場となっている。世界の「家族の会」との連携も進み、各国の関係者との日常的な情報交換は当たり前。ということで、昼寝から目覚めた。

そして認知症となった田部井は…

施設長 田部井康夫



●「家族の会」の会員が認知症の人の1%になっている。●医療・介護福祉に携わる人で「家族の会」を知らない人は一人もいなくなっている。●診断を受け、介護サービスを利用する人には、必ず「家族の会」の情報が届くようになっている。●介護福祉・社会保障・教育を最優先とする政策がようやくその緒に就いている。●認知症の初期支援のために、「集中支援チーム」に加え、専任の支援員（仮称）が設けられ活動している。●不老不死の薬が難しいように、老化のメカニズムに深く関わる認知症の根治薬はまだできていない。●認知症となった田部井は、名作映画や1970年前後の作品を鑑賞するときだけ、昔を懐かしむかのように穏やかな笑みを浮かべている。



看護師と認知症の経験を生かして

山本きみ子

新年明けましておめでとうございます。

私の10年後の目標は、早く根治薬が出来て認知症が治って認知症の人の支援をしたいのです。看護師、認知症の経験を生かして、自宅で夫と2人で誰でもが立ち寄れる居場所を開き、毎日みんなで、わいわい、がやがやと第2の余生を送る。また、認知症初期の人たちの手助けをして役に立ちたい。

もちろん新薬により認知症の人も少なくなり施設の方も待ちもなく、誰でもが好きな施設に入れる日が来ると思います。

根治薬によって新未来が開けるように。

会員さん からの お便り



ぽ〜れぽ〜れ11月号
「体験談が聞きたくて入会」を読んで

何でも話しています

大分県・Hさん 73歳 女

私の夫は68歳の頃から暴言、暴力がありとても大変でした。要介護2でレビー小体型認知症と診断され、パーキンソン病の症状も出ていました。「家族の会」に入り、何でも話し、アドバイスも聞けています。今、75歳になりましたが、デイサービスやショートステイが利用できています。家にいる時は少し優しくできているような気がします。

病院の先生、ケアマネジャー、「家族の会」の方々に何でも話して自分の中に閉じ込めないようにしています。夫の身体が動く間は一緒に頑張ってみようと思います。

いつも自分が我慢

大分県・Tさん 女

胸が苦しくなるというお気持ち私もよくわかります。暴言をはかれると辛いですよね。私の場合は母なのですが、いつも自分が我慢しなければいけないのかと、辛い思います。友人やお医者さんに話す事で心が軽くなる時もあります。

母は現在89歳。もう9年以上前になりま

すが、主人の仕事の関係で私たちが母と別居した頃から、物がなくなったと言うことが多くなり、離れて暮らしている私がいつも犯人でした。昨年5月からまた、同居することになりましたが、物盗られ妄想はますますひどくなっています。「私は盗っていない、使っていない、一緒に探そう」の連続です。家をリフォームした時に母の部屋には鍵をかけられるようにしてもらったのですが、この頃は、自分が家の中にいても、ちょっと部屋を離れる時すら鍵をかけるようになりました。私の気分はあまり良くないです。

2回ほど、頼んで専門の病院に行ってもらい、認知症と診断され薬も処方してもらいましたが、薬を飲むのを嫌がり、「自分は認知症ではない」と言い張ります。この状態がいつまで続くのか…

ぽ〜れぽ〜れ11月号
「認知症を知らせるべきか？」を読んで

知ってもらう事も大事

東京都・Sさん 女

Nさんは私と同世代、母とも同じ年で、他人事とは思えません。うちは同居ですが、それでも隣近所や、たまに母が一人で行く近所の店などにはすべてアルツハイマー型認知症であるとお知らせしています。

母に対して、知らずに「変だな？」と思われるより、「そうなのか、じゃあ話が変わっても仕方ないね」と思って頂ける方がとても安心だと思います。金融機関などは特に、知っていて頂くことは大事なのではないでしょうか。本人が忘れたとか、間違えたでは済ませられない事ばかりですから。

遠距離介護ならなおさらお母様の周囲の方の小さなサポートが積み重なって、結果的にNさんを助けて下さるのではないのでしょうか。

ぼ～れぼ～れ11月号
「施設に入った母…」を読んで

施設は人員不足

山梨県・Oさん 女

日本の施設の現状は、厳しい側面があるのではないのでしょうか。私の場合、職員としてケアにあたっていましたが、働く人が不足している状況で、トラブルが絶えず、業務の隙間をぬって利用者さんと束の間の楽しい時間を過ごしていました。

問題解決の道は遠く、抱えざるを得ない状況に苦労の方が多いと思います。お母様のためには、その可哀そうな部分の一片を貴方と共有してみてもはどうでしょう。

なり、昨年1月、精神病院へ入院し、9月末にはグループホームに入所しました。まわりの方々の話を聞いていると私はどうしたらいいのかわからなくなり、施設や病院の職員でない方々の話を聞きたくて、包括支援センターに「家族の会」を紹介してもらいました。

父は自分は自立した良い人間だと思っていて、プライドが高く、認知症とは思っていません。今でもです。

私しか介護者がおらず、元気な父を追いかけてながら自宅で介護することはできません。多分、私の寝る時間、トイレに行く時間もなくなると思います。自宅に戻すことは考えられません。

すべきことがあれば教えて下さい

大阪府・Hさん 41歳 男

別居の77歳の母はレビー小体型認知症と診断されました。介護についてどうするのが良いのか迷っています。一緒に住んでいる父は他人事です。

医大の先生には薬を飲むしか治療がないと言われましたが、他にすべきことがあるのであれば教えて下さい。今後、施設への入所を考えるタイミングもわかりません。

昨年を振り返ってみて

青森県・Iさん 女

一年が閉じ、また新たなこの時期に思う事。認知症の父が肺炎で入退院を繰り返し亡くなった。

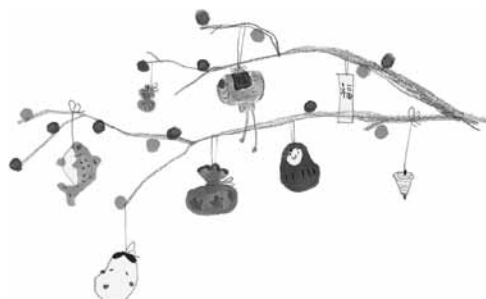
今、認知症の人の入院～在宅医療が見直される情報があってもなお、実家のある地域は訪問診療が全くありません。認知症疾患医療センターがある地域でさえ…。

母は老健入所で、胃がんがあってもなんとか食べております。行くと誰かがわからなくても、笑顔で迎えてくれる母。また、今年もよろしく。いくつになっても母さんの子。

どうしたらいいのかわからず

兵庫県・Wさん 55歳 女

82歳の父を介護しています。平成24年の暮れに、カラオケ仲間から様子がおかしいと言われて気がつきました。年齢からの物忘れと思っていました。25年の秋からはかなり進んで、私一人で介護するのが限界に



お便りお待ちしております！

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル
京都社会福祉会館内〈「家族の会」編集委員会宛〉
FAX.075-811-8188 Eメール office@alzheimers.or.jp

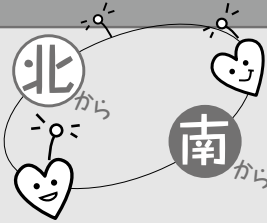
135 支部だよりにみる

介護体験

今回は
宮城県

「演じる」

仙台市 西村郁子



宮城県支部版
(2014年10月号)



●不快な一回目のプロポーズ

認知症になった夫から私は二度プロポーズされました。姉が遊びに来ていた時のことでした。夫が姉に「話がある」と居住まいを直し、少し離れた場所にいた私を指差し、「あのひとと結婚したい」と言いました。その時の私は違和感で気持ちがざらつき、この場の展開が早く終わることを願いました。姉は「どうなの?」と私に聞きます。その頃、夫の暴言や暴力に苦しんでいましたので、内心、できるものならお断りしたいと思いつつも、小さな声で「いいですよ」と答えるのが精一杯でした。姉は面白がっていて、夫に調子を合わせてくれていました。後で姉は私がとても不快な顔をしていたと語っています。

●ドライブ中、二回目のプロポーズ

二回目はドライブ中でした。運転免許を持たない夫は、以前から私の運転するドライブが大好きです。病気になってからのドライブは、夫の不穏な精神状態の時に安定させる便利な手段でありました。ところが、このドライブ中、家に近づくにつれて状況が待っています。自宅は「母親と二人で住んでいる」ことになってしまうのです（母は17年前に亡くなっていますが）。

昔、母親に結婚を反対されるなど確執もあったせいか、私を家の中に入れてくれません。本人のイメージが結婚前にさかのぼっているようです。そのため私を実家に帰そうとします。仕方がないので一回りして「ただいま」と帰りますと、「僕も今帰ったところだ」とリアルな世界に戻っています。

このような背景があって車中でプロポーズです。

夫「あなた独身ですか?」、私「そうです」、

夫「僕は母親と暮らしているのだけれど、75歳で独身、このままだと子孫も残せない、そろそろ結婚したいと思っている」、私「私は一人暮らしで寂しいから一緒になりましょう」、夫「結婚するにはどうすればいいのかな?」、私「区役所で婚姻届を提出すればいい」、夫「これから行きましょう」

かくして区役所へ行き、婚姻届の用紙を受け取ってこの回のシナリオは終わりました。

●三回目はいつ?

一回目のプロポーズと二回目の間に一年以上の月日が流れています。もともと不器用で生真面目な自分が、葛藤しながらも方便や嘘を使いこなせるとはびっくりです。芝居にたとえると、客席でなく同じ舞台に立って演じることで、うまくいくことがわかってきました。女優になれた今、三回目のプロポーズを待っているのですが、「あれ」「これ」になってしまい、夫の口からセリフが出てきません。

認知症になった夫を受け入れられなかった頃が一番苦しかったし、相手も不安から興奮、暴言、混乱を招いていたのだと思われます。夫を観察していると、過去とか未来はなく、一瞬を生きています。今が快であればそれで良しの態度です。メンタル面のケアに追われてきましたが、最近は身体的衰えが目立ちます。夫喜寿、妻古希、老老介護です。夫のように一瞬を生きるわけにはいきませんが、今日一日、いい日だったと思える日々を重ねていこうと思います。そうすれば、朝ドラ「花子とアン」のセリフ「曲がり角の先はきっと一番よいものに違いない」のですから。

いきいき 「家族の会」 まちでも村でも

皆の力で全国研究集会 in 青森 大成功！

青森県
支部

「全研を通して一人でも多くの会員に『家族の会』のすばらしさ、温かさを届けたい。多くの県民に『家族の会』を理解してもらいたい」という石戸育子代表の熱い思いに応え、11月2日、青森市民ホールは県内外

からの参加者850名で会場は満席。そのような中、事例発表では、支部から2名が発表。シンポジウムでは、ご本人の前田栄治さんから「出来ることはまだまだある」という力強いメッセージと妻の美保子さんからの問題提起もあり、時間が足りないほど。支部会員が大活躍した青森大会は「大成功」でした。

全国研究集會長崎大会の成功に向けて！

長崎県
支部

2016年の長崎大会の成功に向けて、支部から6名が列島を縦断して青森大会に張り切って参加しました。

6名は「『家族の会』に期待されていることが大きい」「大会運営や参加者の状況など多くのことを学べた」と

語っています。更には「まだまだ先のこと…なんて言っているうちに月日があっという間に過ぎてしまう。

これからは、世話人一同、気を引き締め一致団結して、第32回全国研究集會長崎大会の成功に向けて動き始めよう」と決意を新たにされたようです。

33年の歴史を秘めたB4判がA4判に！

富山県
支部

33年間B4判で続けた支部会報を今回、A4判本部会報に統一しました。「1段組みと2段組みの頁」「ワープロと手書きの頁」「絵手紙と切り抜いた写真」などによりも介護者への多くの情報提供等々。そして、多くの世

話人が会報発行に関わっていることなど、支部会報33年の歴史がA4判になっても受け継がれていることが紙面から伺えます。

「紙面の割り付けに慣れるまで悪戦苦闘です。読みづらいかもかもしれませんが、どうかよろしくお願いします」と会報担当世話人が語っています。

支部会報「いちやれば ちょーでー」創刊

沖縄県
支部

昨年6月に承認された沖縄県支部は、現在、県下5地区会で月例つどい、若年性認知症のつどい「だいじょうぶネット沖縄」の年4回開催、電話相談、講演会、講師派遣等々、精力的に活動をしています。そして、今

回、沖縄のことわざ「出会ったら皆兄弟」から名付けた支部会報を発行しました。金武直美代表は「支部代表と世話人の平均年齢は全国の支部の中で一番若く、専門職も多いため、元気で機動性のある支部です。本人、家族、世話人それぞれが思いを語り、共有し合って、皆が元気になりましょう」と呼びかけています。

国際交流委員会発 スイスの巻

「ケアでつながる地球家族」

世界中のあちこちで「認知症の人にやさしい地域づくり」が盛んに行われていますが、今月は、スイスアルツハイマー協会の取り組みを紹介します。

■スイス版認知症サポーターの表彰

スイスは現在、人口約800万人、認知症の人は10万人といわれ、その半数が自宅で暮らしています。同協会は地域づくりのための活動を行っていますが、フォーカス賞（FOCUS-PRIZE）というイベントもその一つ。毎年スイス全土にある21の支部ごとに「認知症の人やその介護者の暮らしを応援している人」を選んで表彰しています。

今年は、認知症を発症した従業員をサポートし、周囲が予想したよりずっと長く働くことを可能にした会社や、認知症のある馴染み客の老婦人をくつろげる雰囲気ですぐ対応し、帰り道の案内もしているイタリアンレストランの従業員などが選ばれました。

この賞は、認知症の人が暮らしやすくするために、だれでも何かできるのだということを広く知らせ、多くの人が行動するようになることを期待して設けられています。表彰式の模様は、メディアに大きく取り上げられ、地域づくりへの関心を高めると同時に、スイスアルツハイマー協会の活動を社会に広く知らせるために大きな効果があったとのことでした。（ADI 機関紙 Global Perspective より）
（国際交流委員 鷲巣典代）



今月の本人

丹野智文さん(宮城県支部)・山本きみ子さん(富山県支部)

「認知症」国家戦略に向けてのヒアリング

老健局長、
室長と面談

厚労省から「オレンジプランに代わる新たな戦略策定」に向けて、認知症のご本人やその家族から意見を聞きたいと、申し入れがあり、同省の会議室でヒアリングが行われました。老健局からは三浦公嗣老健局

長、水谷忠由認知症対策室長らが出席。「家族の会」からは、宮城県支部の丹野智文さん、富山県支部の山本きみ子さん、それぞれのご家族、勝田登志子副代表、阿部佳世事務局長の6人が参加しました。



社会と関わりをもって希望を持って生きたい

最初に丹野さんが発言し、「39歳で認知症と診断された時、何もできなくなるのか？仕事は？生活は？何も分からず恐怖と不安の中にいた。診断された時にまず何をすれば良いか分からなかったので、認知症について学べる場があれば安心できる。役所でも受けられる支援がワンストップで分かるようにしてもらいたい。若年の場合、子どもが成人するまで何かしら保障があると助かる」と訴え、「そんな時『家族の会』と出会い、病気とともに明るく生きようと思えてきた。不安でなく、生きていくには、社会と関わりをもっていることが大切だと思っている」と、話しました。丹野さんのお母さんは「まさか息子が認知症になるなんて！納得できなかった。この子を殺して私も死んでしまえばと思ったこともありましたが、今では、たくさんの人に出会い、私も息子を支えて一緒にがんばろうと思っている」と話され、一同涙に暮れる場面もありました。

山本さんは、「6年前に認知症と診断され、その後2年間は介護施設で働いていた。認知症になってもすぐに機能が落ちていくわけ

はなく、初期のころはできることの方が多い、役に立ちたいと思っている。今はカフェを主人と一緒に楽しんでやっている」と話され、ご主人は、「同じ病気をもっている人、家族が集団生活できる所があると良いのに。廃校になった学校などを利用して。一人暮らしの不安も除かれ、お互いの生活を支えるために役割もでき社会との関わりもできるのでは」と提案されました。

これらの意見に対し局長は、「認知症の人に優しいまちは、すべての人に優しいまちになっていくのだと考えています」と応え、最後に丹野さんが「たくさんの方が、認知症について考えてくれることが希望につながる。希望を持って生きられるようにしてもらいたい」と要望してヒアリングを終えました。

(事務局長 阿部佳世)



左から丹野さん母子、山本さん夫妻、勝田副代表、手前から水谷室長、三浦局長

情報
コーナー 交流の場

(詳細は各支部まで)

宮城●2月5日・19日(木) 午前10:30～午後3:00／翼のつどい→泉社会福祉センター
山形●2月25日(水) 午後1:30～3:30／山形本人のつどい→篠田総合病院
埼玉●2月25日(水) 午前11:00～午後1:00／若年のつどい・大宮→地域包括センター諏訪の苑
神奈川●2月21日(土) 午前11:00～午後3:00／若年期こすかのつどい→市立総合福祉

会館
富山●2月7日(土) 午後1:30～3:30／てるてるぼうずの会→サンフォルテ
岐阜●2月15日(日) 午前11:00～午後3:30／各務原市のつどい→ニッケかみ野苑
●2月22日(日) 午前11:00～午後2:00／岐阜市のつどい→アルト介護センター長良
愛知●2月14日(土) 午後1:30～4:00／元氣かい→しあわせ村
滋賀●2月11日(水・祝) 午前10:00～午後2:00／ピアカウンセリング→成人病センター職員会館

鳥取●2月28日(土) 午前11:00～午後3:00／東部につどいの会→鳥取市・コトリ舎
広島●2月7日(土) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会東部→福山すこやかセンター
●2月14日(土) 午前11:00～午後3:30／陽溜まりの会広島→中区地域福祉センター
福岡●2月4日(水) 午前10:00～午後0:30／あまやどりの会→福岡市市民福祉プラザ
熊本●2月7日(土) 午後1:00～3:00／若年期認知症のつどい→県認知症コールセンター